

Staphylococcus aureus を用いた 乾燥濾紙血内 T S H 測定における B・F 分離

熊本大学医学部小児科 松田 一郎
化血研 藤本 茂 紘
梅橋 豊 蔵
林 田 寿 幸
大 友 信 也

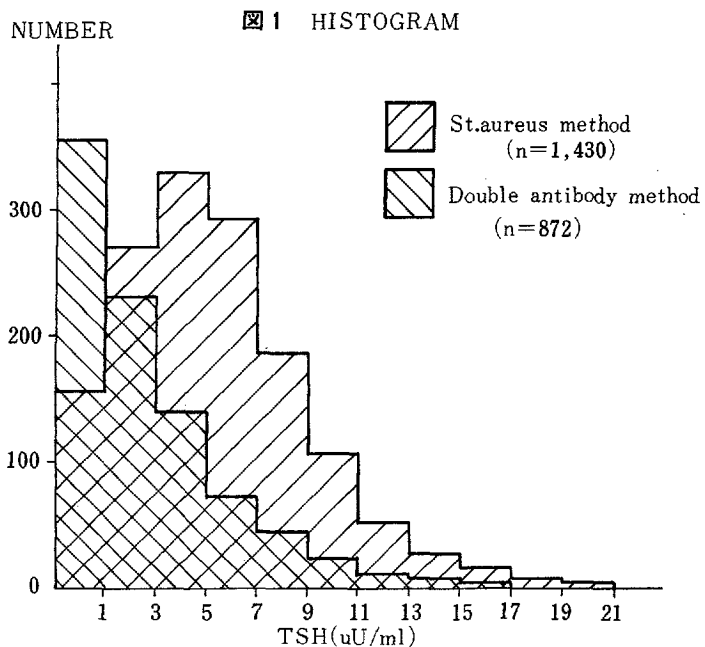
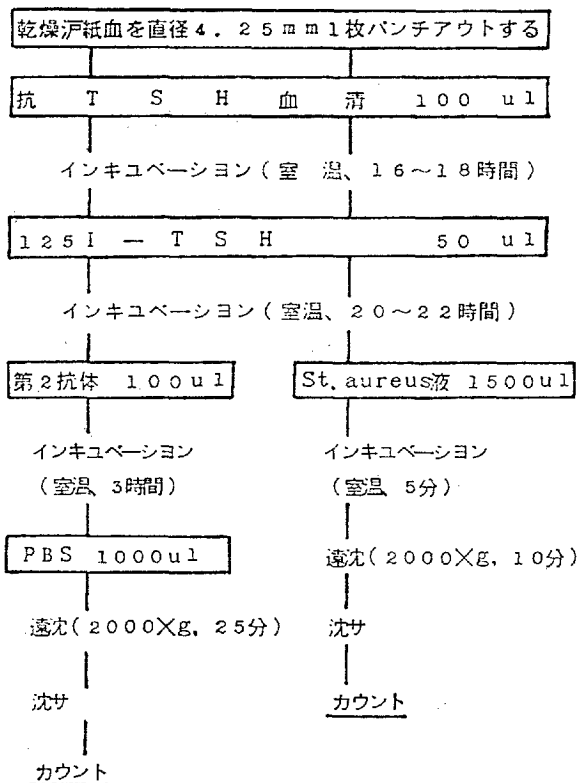
<目 的> 我国におけるクレチン症のマス・スクリーニングは新生児乾燥濾紙血中の TSH を測定することによってなされているが、固相法や二抗体法、そして二抗体 PEG 法には一長一短ある。そこで St. aureus (Protein A を含む) 液が IgG の Fc に結合することに着眼し、これによる assay を試みた。

<方 法> 表 1 に示す。

<成 績> ① St. aureus 液の濃度は 7~10 mg/チューブが適当な濃度であった。② 反応時間、温度そして遠沈時間等の検討では室温静置、5 分の反応時間そして 2000×G、2 分で完全な沈澱をえた。③ 再現性、回収率は二抗体法とほとんど差がなかった。④ 二抗体法との相関は係数 0.986、 $y = 0.92x + 4.0$ と良好であった。⑤ 標準曲線は二抗体法と差違がなかった。⑥ 新生児マス・スクリーニングでは二抗体法 872 例、St. aureus 法 1,430 例について検討したが、St. aureus 法は正規分布にちかい分布を示した (図 1)。

<まとめ> 本法は二抗体法のほとんど差異がなく、むしろ反応時間などの短縮化や沈澱の流出がないなど利点が多い。またマスでの検討でも正規分布にちかい分布を示し満足すべきものであった。

表1 方法





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



<目的>我国におけるクレチン症のマス・スクリーニングは新生児乾燥濾紙血中のTSHを測定することによってなされているが、固相法や二抗体法、そして二抗体PEG法には一長一短ある。そこでSt.aureus(ProteinAを含む)液がIgGのFcに結合することに着眼し、これによるassayを試みた。